

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0171000565), 法人名 (医療法人社団 豊生会), 事業所名 (グループホームすぎの子の郷), 所在地 (石狩郡当別町春日町97-1), 自己評価作成日 (平成29年12月), 評価結果市町村受理日 (平成30年1月25日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな当別町に所在を置き、施設入口にはヤギが飼育されており、入居者様にはエサをあげに行く等、自然に囲まれた散歩コースとなっております。地域に関しては、町内会の催し物や近隣の中学校(職場体験実習先)、大学生(看護老年学実習先)実習場として若い世代との交流の機会を設けております。その他、ご家族参加型の行事も年に数回実施しており、一緒に外食したり施設で行事を通して交流を図っていただいたりすることもあります。入居後も、住み慣れた場所で可能な限りゆっくり、楽しくすごしていただけるよう、職員も一緒に楽しみながら、入居者様、ご家族様含め笑顔の溢れる施設を日々目指しながら取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_02_2_kan=true&JigyosvoCd=0171000565-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成30年1月17日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

石狩当別駅から徒歩10分、緑に囲まれた住宅地に建つ2階建て1ユニットの事業所で、1階には、デイサービスセンターと居宅介護支援事業所を併設している。運営母体である医療法人は、開設以来、高齢者医療・福祉・介護の草分けとして歩んできた豊富な実績を生かし、健康管理・書類整理・職員研修等を整備している。2ヶ月に一度、定期的に開催する運営推進会議には、多くの利用者家族、地域住民、町福祉課職員、地域包括支援センター職員等が参加し、利用者の状況・行事予定と報告・地域との交流・家族からの意見要望等、活発な意見交換を行いケアの充実と事業所の運営に活かしている。事業所の基本理念『ゆっくり、一緒に、楽しく、豊かに、家族と共に、地域と共に！』は全職員が共有し実践している。管理者及び職員は笑顔と優しさで、利用者と共に過ごす時間を大切にしており、暖かい日には、敷地内のやぎ小屋や白樺緑地まで散歩に出掛けている。利用者の町内会行事の参加や、地域住民は事業所行事のはつらつ祭りや避難訓練に参加しており、近隣中学生の職場体験・看護学生の実習を受け入れている。地域密着型として、利用者本位の温かい事業所である。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目の届く場所、入口、詰所内に掲示しております。 また、名札の裏にも縮小サイズのをいれ確認できるようにしています。	事業所の基本理念である『ゆっくり、一緒に、楽しく、豊かに、家族と共に、地域と共に！』は、随所に掲示し、全職員は確認しながら介護の実践につなげており、パンフレットに明記している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の催し物、実習の受け入れ(最近では中学校の職場体験実習)を積極的に行っています。	利用者は、町内会行事に積極的に参加し、地域住民は事業所行事の、はつらつ祭りや避難訓練に参加している。近隣中学生の職場体験・看護学生の実習を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ふまねっとの出前講座だけではなく、法人内のグループホーム間も意見交流ふまね研修会を開催しております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括、福祉課、町内会、ご家族の参加で2ヶ月に一度必ず実施し、ご意見、ご感想のほか町内会や町からの案内等をお伝えできるようにしております。	家族・町内会役員・町福祉課職員・地域包括支援センター職員・他グループホーム職員が出席し、活発な意見交換が行われ、事業所の運営に効果を上げている。議事録は整備し利用者家族に送付している	運営推進会議は、事業所のサービス内容を明らかにすることにより、サービスの質の向上を図ることを目的としており、ヒヤリハットや事故についても開示して、話し合うことを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町主催の研修会や地域ケア会議に参加しております。	町福祉課とは、地域ケア会議や運営推進会議で意見交換する機会がある。入居相談や事業所運営等で日常的に連絡をし、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の職員会議で職員への確認・周知を行い、身体拘束を行わないケアを目指しながら対応しています。	法人内研修会で学び、身体拘束をしないケアに取り組んでおり、センサーマット等も使用していない。日中玄関は施錠せず、鍵を掛けない暮らしを實踐し、マニュアルも完備している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の職員会議や日常の声掛け、関わり方を通して気になる部分に関してはその都度、職員に確認しながら、虐待につながらないように対応しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前に後見人制度使われている方がいましたが、今はいないため、もし必要性のある方が入居された際には説明しながら理解を深めていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭及び文章での説明を行っています。ご家族にも確認しながら理解・納得できるようすすめています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、家族会などを通して、直接要望・意見を聞けるようにしており、ご家族のご意向を含め、それに寄り添ったケアを行っています。また改善するところは、職員に周知しながら一緒に考え改善しております。	来所時には記録を提示しながら、家族の希望や要望を聴き、家族の思いを運営に反映するようにしている。利用者の日常の様子を伝えるために、毎月写真付きの事業所便りを発行している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議での直接的意見交換や全職員が必ず見る送りノートを活用しています。	月に1度の全体会議や、年2回の人事考課で、職員の意見等を聞いている。また日常の業務を通じ常に話し合いの機会を持ち、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格に合わせた手当がつき職員への還元があります。また、休暇の取得もリフレッシュ休暇の他、法人内での旅行や食事等希望に合わせた企画があり、福利厚生を整えています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部問わず、研修に参加できるような体制があります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流やネットワーク作りを行っております。法人内ではありますが、グループホーム同士での情報交換や情報共有などをはかる機会を月に1回行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。	不安や心配事などを把握し、入居された際に混乱されないように、ご家族やCMなどから事前情報をもとにし、ご本人が安心して過ごせるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談や契約の際に必ずご家族の想いやご家族が感じている事(気になる事・不安に想う事など)を必ず確認するようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の声を傾聴し、思いに添ったケアを共有できるように対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存能力の維持・できる事の継続などを、ご本人の状況にあわせながら一緒に行うことで、関係性を構築しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族参加型の行事を取りいれながら一緒に参加できる機会を提供しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所をアセスメントし、関係性が継続出来る支援を行なっています。	自宅に帰り家族と過ごしたり、お盆には墓参りに出掛けている。家族参加の外出行事は、年間多数計画されており、馴染みの人や場との関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格や相性を把握し、一緒に楽しめる時間を共有できるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も別の他施設や病院へ移られた方のお見舞いや面会等を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話などから、想いやご本人が感じている事等を把握するようにはしています。	利用者の発した言葉を記録し、個々の思いや希望を把握するように努めている。また家族からも意見や意向を聴きケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族から情報収集し、その生活を継続出来るよう配慮しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録等を通して、残存能力の変化などを共有しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族などから要望を確認し、毎月の事業所会議で職員から情報を集約しその方に合ったプランを作成しています。	利用者・家族・看護師・医師などの関係者と話し合い、介護支援専門員を中心に十分検討し、利用者本位のケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事や排泄状況などを記録し必ず周知しています。よりその方に合ったプランになるように行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の想いにそえるよう、柔軟に対応を行えるようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア交流や地域の学生との交流を行っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の希望を第一に、要望された病院への定期受診を行っています。	利用者は、入居前からのかかりつけ医を受診しており、職員が通院介助をして医師に情報を伝えている。事業所には看護師2名が勤務し、利用者の健康管理をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調確認を行ってもらい、特変時は判断を仰ぎながら対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族の同意の下、ムンテラ時や検査結果などの際には、同席させていただきご本人の状態像の明確な把握と退院時に安心して過ごせるように準備を行っております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見取り等のケアに関しては、地域での医療体制が整えておらず実施が難しい状況です。	医療連携体制のもと、『重度化した場合における対応に係る指針』を作成している。医療が必要になった場合については話し合いを行い、事業所が出来る最大限の支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの研修や救急対応の研修などを消防に依頼し実施しています。念のため、緊急時のマニュアルも作成済みです。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回(デイ2回・GH2回)建物の様々な想定で訓練を実施。食料の備蓄なども用意しています。	消防署の協力の下、年4回利用者や近隣住民と共に、様々な災害設定で避難訓練を行っている。万が一の災害に備え、食品や飲料水等の備蓄品も準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳・プライバシーへ配慮し、自尊心を尊重した関わり、ケアを行っています。	一人ひとりの尊厳を重視し、個々の状態にあわせた声掛けや対応に配慮している。個人情報についても、取り扱いには十分に気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択できる部分は希望を聞きながら自己決定できる機会を提供しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の好きな事や、日々の変化に応じて適切に対応出来るようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理美容で身だしなみを整えたりしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食べ物や入居者様が食べたいものなどを聞きながら、食べたいものを食べられるような機会を年に数回もうけています。	畑で収穫したキュウリやトマト、近隣住民からの差し入れ野菜などを食事メニューへ取り入れ、利用者が楽しめる食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取状況や定期的な体重などをみながら必要に応じてかかりつけ医へ相談し、食事形態などのアドバイスをいただき対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・晩の2回の口腔ケアのほか、年に一度入居者様全員を対象に訪問歯科を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況を排泄版を使用しながら、失敗なくトイレでの排泄を行えるようにしています。	身体的状況や、心理的な負担を検討しながらトイレ誘導の方法を、全職員で話し合い支援している。自尊心に配慮した声かけとさりげない誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給時に乳製品を提供したり、可能な限り薬を使用しないようにしています。都度、看護師には確認していますが必要に応じて下剤の調整や坐薬の使用を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に合わせた入浴剤の色や香りで楽しんでいただけるようにしています。	利用者の希望や体調に合わせて、いつでも入浴できるように支援している。羞恥心や尊厳に配慮し、同性介助を基本としている。好みの入浴剤を使用し、リラックスして入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に生活リズムを整え夜間良眠につながるように対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診ノートや直接情報を伝え、職員間で共有できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々での楽しみや連帯感を持った楽しみの両面で楽しんでもらえるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望される方は少ないですが、外出行事や散歩等を通して受診以外でも外出できる機会を設けています。	暖かい日には、やぎ小屋や白樺緑地まで散歩に出掛けている。ユニットには広いテラスがあり、冬には雪だるまを作り、皆で鑑賞することで季節を感じる支援をしている。花見・紅葉狩り・外食等の行事が年間計画の中に多数盛り込まれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、自己管理されている方はいませんが、一緒に買い物に行った際には支払いなどを行っていただくことがあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や贈り物をいただいた際には、電話やご本人の顔写真を添付したお礼のお手紙を可能な限り直筆で行っています。難しい場合はPCを使用しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎に装飾物のものを変えたり、掲示物の変化も季節に合わせて変化させています。	南向きの居間は、明るく広々としており、利用者の手芸作品や行事写真が随所に飾られている。ユニットはリビングを中心とし、周りに居室を配置した回廊式になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな時間、好きな場所で過ごせるようにソファを設置しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具や好みに合わせたものを持ち込まれたり、仏壇を置かれている方もいます。	居室には、本人や家族と相談しながら、自宅で使っていた利用者馴染みの家具・小物・生活用品を配置し、居心地良く過ごせるよう配慮工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の手摺の設置や床はフローリングで段差のない環境で過ごしていただいています。		